

○明治十六年十二月廿七日
任東京府大書記官 東京府少書記官正七位 銀林綱男
任四等書記官一等書記官 萩 貞
任青森縣大書記官 古莊嘉門

時事新報

明治十六年歲晚ノ感

鳥兔匆匆明治十六年早ク既ニ十二月廿九日トナリ
本年ノ日子ハ僅ク今日ニ日ヲ餘シ當社時事新報モ本
日ヲ以テ今年ノ發兌納メト致シテ來ル明治十七年
一月四日ノ初摺ヨリ再ビ又看客諸君ト紙上ニ相見
ルノ榮ヲ得ベキナリ

我輩ハ舊年ヲ送リテ新年ヲ迎フルノ際ニ當リ過去一
年間ノ我日本社會ノ事歴ヲ回顧シテ聊カ感慨スル所
ナキニアラズ我輩ハ明治十六年ノ歲首ニ於テ前途ニ
希望スル所ヲ陳述シテ希望ノ數々アル中ニモ社會ノ調
和ト兵備擴張トハ日本全國ノ幸福ノヲメニ我輩ノ最
モ切ニ希望スル所ニシテ最モ急務ヲ要スルノ事ナリ
ト云ヒタリヤ然ルニ明治十六年ノ一月ヨリ十二月
ニ至ルマデ日日出テ日没シ雨和ラズ風順ヒ歲晚ノ今日
無事ニ一年ノ日子ヲ經過シ了リタリト雖ヒ我輩ノ希
望モ亦共ニ大ニ達スルヲ得タリシヤ否ヤト尋ルニ
其希望未ダ滿圓ナラスニテ我輩ハ尙ホ甚ダ殘心ノ情
アルヲ哀シマントスルナリ

全國政黨ノ議論ハ今日ノ實況ヲ以テコレチ一年前ノ
有様ニ比スルニ或ハ其喧シキヲ減シタルノ實跡ナキ
ニアラズ是將テ調和ノ實功ヲ表シテ此現象ヲ發表シ
タルモノカ未ダ必ズモ然ラザルベシ全國社會ノ群
體ナル何ゾ獨リ政黨ニ限ラン農家ハ米價ノ下落ニ辟
易シテ田圃ノ開墾シテ商家ハ無事閑散日ニ身代ノ
減少スルニ辟易シテ店頭ニ獨坐大患シ工業家ハ何種
ノ品ヲ製造スルモ需用者ノ少ナク物價ノ過廉ナルニ
辟易シテ工場ヲ閉居坐食シ社會一般何ノ種
類タルヲ論ゼズ人事皆蕭條靜寂ナラザルハナシ政黨
政治モ亦人事ノ一部分ナルガ故ニ全國不景氣ノ大風
潮ニ卷キ捲キテ其聲ヲ収メテ聞ユル所ナキガ如キ
モ是亦當然ノ事トシテ仕テシムニ足ラズ然レモ其靜寂
ノ原因若シ果シテ社會ノ不景氣ニ在ルモノナランニ
ハ一旦回復ノ機ヲ得テ農工商業再ビ昌榮スルノ時期
ハ即チ再ビ政黨政治ノ喧シキヲ聞クノ時期ナリト覺
悟セザルニカラス我輩ハ社會ノ調和ニ關シテ今日既
ニ其望ヲ達セリト公言スルコト能ハザル所以ナリ

○明治十六年十二月廿八日 大政大臣三條實美
○大政官布告第四十九號
○明治十六年十二月廿八日 大政大臣三條實美
○大政官布告第四十九號

第九條 此公債ノ元金償還ノ事務ハ總テ日
本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ其時期及場所等
ハ抽籤ノ日ヨリ少クトモ三十日以前ニ大藏卿ヨリ
告示スルモノトス

第十條 此公債ノ利息ハ日本銀行本支店又ハ代理店
ニ於テ利札ヲ切取リ之ヲ引換ニ拂渡スヘシ

第十一條 此公債證書ハ何人コトモ授受買賣スルコ
トヲ得

第十二條 此公債ノ元金償還ノトキハ日本銀行ニ於
テ抽籤配賦計算ノ割合ヲ定メ東京横濱居住人コト
此公債證書ヲ多額所持スル者十名以上并大藏省國
債配賦局ノ官員五名以上立會ニ上抽籤ヲ執行シ
其當籤證書ノ配賦額種類金額等ハ大藏卿ヨリ告
示スルモノトス

第十三條 此公債證書ノ所有者其證書ヲ亡失セシト
キハ其事由并證書面ノ金高配賦額及所有セシト
キノ手續ヲ詳記シ其亡失セシ地ノ官廳ヲ經テ大藏
省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證書ノ授受買賣ヲ禁止ム
ヘキ旨ヲ告示スルモノトス但復見シタルトキハ同
様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ亡失ノ證書ヲ發見セシ
其償還年限ノ末期ニ至リ證書消滅セシト認ムヘキ
場合ニ於テハ該證書ノ元金償還ヲ其届出人ニ拂渡
スヘシ

兩來我政府ガ軍備ヲ新造シ陸兵ヲ増員スル等ノ事
ニ着手スルヲ見テ其奏功ノ速カナランヲ希ヒ部見
テ陳スルヲ幾回ナラシメ知ラズ目前ノ一事ヲ例スレバ
安南事件ニ關スル清佛ノ高麗ハ實ニ東洋ノ一大事ナ
リ清佛果シテ交戦セシカ我日本ノ如キハ兵ヲ派シテ
嚴正ノ中立ヲ守ラザルベカラズ或ハ兩國軍ニ兵戈ニ
所フルニ及バズシテ此高麗ヲ和解スルコトヲアランカ無
事平穩ニ其喜ブベシト雖ヒ其實云ヘバ清佛兩國
ノ軍備ハ唯清佛兩國ノ戰爭ニヨリ用立ナク之ヲ他
ノ一國トノ戰爭ニ轉用スベカラズト定マリタルモノ
ニアラズ無事ニ一局ヲ収結シ有事ニ一局ヲ提起シテ
軍備ノ運用甚チ自在ナルガ故ニ今日清佛ノ高麗ハ忽
チ變シテ明日何國トノ高麗ヲ爲ルヤモ測ルベカラズ
實ニ今ノ文明世界ニ國ヲ立ツル者ハ治ニ乱ニ終始兵
備ノ緊要ナルヲ水火ヨリモ尙ホ甚シキモノアルナリ
然ルニ不幸ニシテ今ノ文明ノ兵備ハ其費用甚チ莫大
ナルガ故ニ大ニ全國人民ノ協同力ヲ得ルニアラザ
レバ其目的ヲ達スルコト容易ナラズ我輩ガ日本ノ兵備
擴張ヲ希望スル同時ニ大ニ又社會ノ調和ヲ希望シ
テ止マザルモ決シテ理由ナキ空言ニアラズト信スル
ナリ我輩ハ政府ガ兵備擴張ニ着手スルヲ見テ我輩ガ
希望ノ達スルモ決シテ速キニアラザルヲ喜ブノ折柄
願フテ全國社會ノ有様ヲ見ルニ各業不景氣ノ甚シキ
實ニ我輩ガ明治十六年ノ歲首ニ當リテ甚モ豫想セザ
ル所ノモノアリ兩來一年ノ間不景氣ノ慘毒ハ益々甚
シキヲ加ヘ人民ノ破産倒産、租稅怠納縮納等ノ報連
續々我輩ノ耳染ニ達シ實ニ心痛ノ至ニ堪ニスル有
様ニシテ此上長ク持續セシカ全國社會ノ人事ハ當分
中止スルノ外ニ工風ナカレベキカト我輩ヲシテ日夜
憂若措ク能ハカランムナリ

雜報

○御用納奏上 昨日は本年の御用納りよ付兩大臣及
び諸省卿兼任の參議執事も午前十一時内閣内出頭し
憲上にも宮中便殿へ出御あらせられたり是に於て三
條太政大臣より本年御用納の旨奏上し後宮中に於て
御陪食を仰せ付けられたりと承り

○御用納 昨日の御用納れも御用納に付各局各課
共官員一同例より早く出頭して事務を整理して手
廻し次第進めし又御用納の處ハ明瞭りて事務を整理